



ŌMIYA NEWS



No.40

2025年9月2日

JR東労組大宮地本

大地申第26号

8月7日開催

「さいたま運転区における、一部副長や指導員等による『労働組合活動への支配介入』に対して、この間の労使確認のもと、原因究明と厳正な対処を求める」申し入れ

第5回交渉
その①

会社が社員から聞き取りをして、話は聞いて、掘りだけれど

団体交渉で事実として認めないので伝えます…

「形だけの謝罪」は謝罪ではない！ 会社の不誠実な対応に怒

浦和統括センター乗務ユニット南オフィス(旧さいたま運転区)ユニットリーダーから3名の組合員に謝罪がされる！

- ①6月27日団体交渉(3回目交渉)の時に、組合から「当該副長からの謝罪を要求する」との話の中で、「個人的な当該副長からの謝罪は指示しない」と回答。コミュニケーションの中で自己申告書の面談で適切でなかったという事で、当該区所のユニットリーダーからのお詫びを検討すると返答し、その経過から3名に謝罪した。
- ②面談の中で組合加入についてや、誤解を生む発言があったのでお詫びした。
→そもそも、3名は組合加入の有無を確認された事はなく、あくまでも当該副長の主張で謝罪。
- ③本来、会社として当該副長が3名の組合員へコミュニケーションを取るよう指導したが、当該副長の人事異動により当該区所のユニットリーダーからの謝罪となった。
→勤務最終日前日(6月27日)に団体交渉となっていて、支社が当該副長の行動を把握しておらず、唯一最終勤務で会う事が出来た組合員1名にのみ「ご迷惑をおかけしました」とだけ話す。
※唯一当該副長に話された組合員は一体何に対する謝罪か理解に苦しんだ、とのこと。
- ④他の2名の組合員に対しての謝罪は「面談の中で組合加入の有無を聞いたこと」、他1名の組合員に対しては「組合を辞めるという様な隠語に聞こえてしまうこと」で誤解を与えている為謝罪した。



ユニットリーダー、当該管理者の謝罪は形式的で、内容や感情が伝わらない！

3名の組合員は何に対して謝罪されているのか分からず、納得感がない。「春の面談に問題なかったか」「面談の中で組合の関係を話した事はよくなかった」「申し訳ない」と具体的な問題点なども説明されていない。特にある組合員に至っては、区長が以前に当該副長からコミュニケーションを取らせると話していたが、それが行われぬまま副長は異動。副区長からは「●●(組合員)からコミュニケーションとったのか？」と言われる始末。そもそも当該副長が本当に反省しているのか？組合より「当該副長からフロアの会話で『〇〇はまだ組合入っているのか？』と聞かれたと聞いている。3人以外も確認すべき。当該副長自身がどういった点を反省しているのかなど、確認しなければ本人達は納得出来ないと思うがどうか？」とも言われていることから、日々の言動からも次なる不当労働行為を引き起こしかねないと通告。



団体交渉でコミュニケーションを取るとなっていたが何もせず、
支社の曖昧な回答により、何が改善されたのかが不明だ！

会社は関係する組合員へ誠心誠意謝罪と管理者への教育を徹底し、社員との信頼関係を回復させるべきだ！
全社員が安心して働ける環境にするため、大宮地本は職場から堂々とたたかいを推し進める！